

令和 6 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育目標	「自ら未来を切り拓く 心豊かでたくましい人間を育てる」 ～希望進路の実現を支援する学校づくりをめざして～
教育方針	1:学力の充実を図り希望進路を実現させる 2:学校行事・部活動を充実させる 3:基本的な生活習慣を確立させる 4:安心できる学校生活を確立させる

2 中期的目標

1 生徒が夢と志を抱き、希望する進路を実現させるための進路指導の確立
（1）キャリア教育を充実させ、生きる意味、働く意味、学ぶ意味を考えさせ、具体的な夢を描かせる。 3 年間の進路指導計画を策定し、生徒が主体的に進路実現できるよう指導する。 ※学校教育自己診断（生徒）「学校で将来の生き方について考える機会がある」の肯定率を R 8 年度も 90％以上を維持する。（R 3 :92% R 4 :95% R 5 :96%）
（2）将来の夢への入り口となる進学をめざすために、チャレンジする意欲を醸成し、粘り強く取り組む力を育成する。 ア 「行ける大学」ではなく「行きたい大学」への進学をめざす。 ※国公立大学及び関西難関私立大学（関関同立・産近甲龍）への現役進学者数を R 8 年度も 100 人以上を維持する。（R 3 :96 人 R 4 :104 人 R 5 :103 人） イ 総合的な探究の時間にキャリアについての学びの機会を設け、自分の希望進路に関連づける。その際 SDGs についての理解を深め、国際的な視点でのキャリア感覚も身に付けさせる。
2 「確かな学力」の育成とそのための教員の授業力の向上
（1）自己の進路実現と学力の関連性を意識させ、学習意欲を向上させる。 ア 志望する大学等へ進学するために必要な学力を意識させ、授業第一主義を確立するとともに、家庭や放課後での自学自習を充実させる。 ※学校教育自己診断（生徒）「学校の授業は分かりやすい」の肯定率を R 8 年度も 70%以上を維持する。（R 3 :77% R 4 :72% R 5 :78%） イ 論理的思考力・課題解決力・自分の意見や考えをまとめて表現し伝える力を育成する。 ※学校教育自己診断（生徒）「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率を R 8 年度も 80％以上で維持する。（R 3 :81% R 4 :85% R 5 :88%）
（2）「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業力向上に取り組む。 ア 大学入試改革に対応するだけでなく、社会に出てから求められる力としても重要視し、ICT を活用した効果的・効率的な授業、生徒が積極的にアウトプットする機会のある授業を推進する。※生徒向け授業アンケートの「授業に興味・関心がある」肯定率を R 8 年度も 80％以上を維持する。（R 3 :80% R 4 :82% R 5 :83%） イ 他校での先進事例の視察や、教育センター等が主催する研修への積極的に参加し、そこでの取組み内容を共有することで全体の授業力を向上させる。 ウ 教員用タブレット PC と 1 人 1 台端末の導入により更なる ICT の有効活用について研究し、学びの充実を図る。
（3）資質・能力の育成につながるよう多面的・多角的な学習評価の工夫を図る。 ア 全ての教科で新学習指導要領に対応した、観点別評価による「指導と評価の年間計画（シラバス）」を作成し、評価の方法を確立する。特に「主体的な学び」についての評価方法は引き続き検討を重ねる。
3 心豊かでたくましい人間性の育成
（1）他者理解と多様性を尊重し、鋭い人権感覚を育成する。 ア 授業、HR 活動などあらゆる教育活動を通して多様な人権課題を提示し主体的に学べる機会を設けることで、適切な人権感覚を育成する。 ※学校教育自己診断（生徒）「学校の授業や行事で人権の大切さを学ぶ機会がある」の肯定率を R 8 年度には 80％以上を維持する。（R 3 :76% R 4 :78% R 5 :81%） イ 学校行事・部活動・ボランティア活動・インターンシップ等への積極的な参加を図ることで、他者理解の姿勢を育成する。 ※学校教育自己診断（生徒）「文化祭や体育大会は、活発で楽しい」の肯定率を R 8 年度も 80％以上を維持する。（R 3 :70% R 4 :83% R 5 :91%） ウ 海外研修と海外からの留学生の招聘を実施し、国際交流を通じて多様な文化を体験し国際的な視野を育成する。
（2）情報リテラシー及び情報モラルを育成する。 ア 情報の授業において、専門家による講演等をおこない、生徒が加害者にも被害者にもならない対策をとる。 イ 1 人 1 台端末の導入を受け、情報社会で通用する人材を育成するため、ICT の有効利用など、教職員の情報に関する指導力を向上させる。
（3）生徒が安心して学校生活をおくれる体制を整え、基本的生活習慣の定着・改善を図るとともに、規範意識を向上させる。 ア 教職員が寄り添いの姿勢で生徒に接し、生徒が相談しやすい指導体制を充実させることで、安全・安心な場を確保する。 ※学校教育自己診断（生徒）「悩みや相談に親身になって聞いてくれる先生がいる」の肯定率を R 8 年度は 75％以上を維持する。（R 3 :73% R 4 :74% R 5 :75%） イ これまでの取組みを進めることで、基本的生活習慣（挨拶、時間、身だしなみ、交通マナー、美化活動、授業態度等）の改善・定着を図る。 ※年間遅刻数を R 8 年度は 2000 回以下にする。（R 3 :2285 回 R 4 :2475 回 R 5 :2661 回）
4 地域に開かれた学校づくりと魅力ある学校づくり
（1）本校の教育活動について積極的に情報発信し、地域の方々に活動への理解を広げるとともに、魅力ある学校づくりを推進する。 ア 本校教職員による中学校訪問を行い、本校の取組みや生徒の状況を共有することにより、中高相互の理解や連携を深める。 イ HP の内容充実を図り、本校の魅力を発信することで、中学生や地域の方々に本校の教育活動への理解を広げる。 ※HP の閲覧数の 1 日平均 900 を維持する。（R 5 平均約 900） ウ 保護者へのメール配信を定期的を実施し、連携を深める。
（2）地域との交流・連携を推進することにより、学校を活性化し、学校への信頼を高める。 ア 授業や部活動、生徒会活動などを通して、地域の活動等に積極的に参加し、小学校、保育所など各機関・団体との交流・連携を推進する。 イ 裏山を活用した環境教育を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する。
5 働き方改革による校務の効率化と教職員の健康増進
（1）部活動指導・諸会議など多くの場面で校務の効率化を図り、勤務時間の短縮を図るとともに教職員間のよりよい人間関係を構築する。 ※学校教育自己診断（教員）「日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談し合える職場の人間関係ができている」の肯定率を R 8 年度も 80%以上を維持する（R 3 :83% R 4 :80% R 5 :74%）
（2）各分掌、学年での年間業務を整理し、校務の効率化を図ることで生徒と向き合う時間を確保する。 ※学校教育自己診断（生徒）「先生は熱心に授業や部活動その他の仕事にあたっている」の肯定率を R 8 年度以降も 80％以上を維持する。（R 3 :83% R 4 :82% R 5 :89%）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和6年10月実施分]	学校運営協議会からの意見
【学習指導等】 ・「学校の授業はわかりやすい」 （生徒）の肯定率は、令和5年度の78%から、令和6年度は83%に上昇した。今年度も職員研修・授業研究期間などを設定し、授業改善に取り組んだ結果と考えられる。今後も、生徒の学力層・ニーズの変化にも対応しながら、わかりやすい授業を展開していきたい。 ・「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」 （生徒）の肯定率は、令和4年度85%、5年度88%、6年度88%と高い水準を維持しており、様々な授業で発表する機会が設けられ、それが定着してきたことがわかる。特にトネ究（総合的な探究の時間）で3年間の継続したカリキュラムで実施している個別探究の影響は大きいと考えられる。 ・「学習の評価は、テストの点数だけでなく生徒の努力や取り組みの変化等を含めてされている。」 （生徒）の肯定率は、令和5年度と同様に令和6年度も88%であり、高い水準を維持した。全学年で新教育課程に対応したカリキュラムが実施され、学びに対する姿勢などの評価が浸透してきたと考えられる。 【進路指導等】 ・「ホームルームなどで進路についての情報が提供されている」 （生徒）の肯定率は、令和5年度と同様に令和6年度も95%である。1年次から計画的に実施されている進路指導と学習支援クラウドサービスを活用した最新の大学等の進学情報の配信が効果であると考えられる。 ・「学校は、長期休暇中の講習や進路指導等を実施している」 （生徒）の肯定率は、令和5年度は96%、令和6年度は97%であり、夏季休業中の講習を中心として生徒のニーズに応じた講習が実施できていると考えられる。 【生徒指導等】 ・「学校の生活指導の方針について納得できる」 （生徒）の肯定率は、令和4年度68%、5年度72%、6年度は77%と着実に上昇している。引き続き、生徒に対して、高校生として「当たり前のことを当たり前」に行い、全員が安心して学校生活をおくれるように指導していきたい。 ・「悩みや相談に親身になって聞いてくれる先生がいる」 （生徒）の肯定率は、令和4年度74%、5年度75%、6年度は79%と着実に上昇している。教員の生徒に寄り添う指導は実施できていることと教員間で綿密に情報共有を行っていることが要因と考えられる。今後も、生徒の小さな変化を見逃さない態勢を維持していきたい。 【特別活動等】 ・「文化祭や体育大会は活発で楽しい」 （生徒）の肯定率は、令和4年度83%、5年度91%、6年度は93%とさらに上昇した。昨年度より、文化祭の服装を「公衆道徳に反しない限り自由」というルールで実施し、生徒たちの自主性に任せたので、このような結果となったと考えている。今後も生徒たちが自主的に取り組む学校行事を実施していきたい。 ・「部活動に積極的に取り組んでいる」 （生徒）の肯定率は、令和5年度79%から6年度75%に減少 ・「生徒会活動や部活動が十分できる環境が整っている」 （生徒）の肯定率は、令和5年度82%から6年度83%に上昇 部活動については、近畿大会や全国大会に出場するなど、大きな成果を上げる部もあるが、全体の部活動加入率は80%を下回っており、積極的に取り組んでいると感じている生徒も減少している。教職員の働き方改革を進めていく中で、新しい部活動の在り方を考えていく必要がある。 【学校運営等】 ・「学校に行くのが楽しい」 （生徒）の肯定率は、令和5年度の85%から6年度は84%と若干の減少となった。各項目では上昇しているものも見受けられるので、それが学校全体への肯定感につながるような工夫が必要である。 ・「学校は、学習と行事・部活動の両立を図るように指導している」 （生徒）の肯定率は、令和5年度の87%から6年度は88%に若干上昇した。本校の「行事も！部活も！勉強も！」の指導に多くの生徒たちが賛同し	【第1回 5月27日】 ○指導に関して ・生徒の学力向上について、高校に入学した最初の段階で、意識改革をする必要があると感じている。 ・進路指導について、学校経営計画では行きたい大学をめざすと書かれているが、刀根山高校の生徒は穏やかでおとなしい生徒が多いと感じている。そのような中で、行きたい大学に行こうとしている生徒は少ないのではないかと。 【学校より説明】以前から一般入試まで挑戦する生徒は増えていて、昨年度は安易に学校推薦型選抜を選択するのではなく、行きたい大学を最後までめざす指導を行った。また、志望校決めの相談は夏や秋の懇談を中心に何度も繰り返し相談を受けている。 ○学校広報に関して ・ホームページを充実していくことも大切だが、最近はSNSを活用している学校が増えてきている。刀根山高校でもSNSの活用を考えていただきたい。 ・高校の私学無償化で公立高校が生徒募集に苦勞されていると思われる。刀根山高校には府内ではめずらしい校内緑地（裏山）があるので、それを生かした魅力を発信してほしい。 ○部活動に関して ・教員の時間外勤務について、中学校でも部活動に対して保護者や生徒たちからのニーズが高く、そのため、時間外勤務が増えている。中学校は地域活用に移行していく流れであるが、高校ではそのような流れではないと思われるので、ぜひ、短時間で効率的な部活動を実践して、中学校にも教えていただきたい。 ○地域連携等に関して ・地域との連携について、裏山は昔からの刀根山の生息をする貴重な資源である。また、例年、地域の子どもたちを連れて、裏山を探検させていただいているが、子どもたちはとても楽しみにしている。 ・防災訓練について、日中に地域に残っているのが子どもたちと高齢者が中心となるので、中・高校生にも協力をいただきたい。防災訓練も地域で連携していただきたい。 ・ボランティア活動について、コロナ禍で以前行っていたことができなくなっているようであるが、地域の方々との関わり合いで、勉強や部活動以外でも学べることがあると思われる。ぜひ、ボランティア活動についても活発に行っていただきたい。 【第2回 11月25日】 ○指導に関して ・TONE 究 Day について、今年で実施3年目となり、3年生は1年生のころから先輩のプレゼンを見ているため、良いプレゼンであったと思う。大学生・社会人になってより活かすことができるスキルと思うので、今後もぜひ続けてほしい。また、防災に関する発表があったが、高校のときからそのような意識があることはありがたいと感じた。 ・校則について納得できるという生徒が増加していることについては、特段、新しい取り組みをしているわけではないが、刀根山サミットで生徒会からの制服の要望について教員から1つ1つ丁寧に説明されるなど、生徒の納得感が得られる指導をされているためではないかと感じた。 ・刀根山サミットについては、生徒たちの自分自身の行動により学校が変わる経験は社会人になったときに主体的に社会に参画することにつながるのと、とても良い取り組みだと思う。 ○部活動に関して ・部活動に関する肯定率が下がっている要因は、中学校ではコロナ禍によるこれまでの体験活動の場の減少、部活動の地域移行の影響により、部活動に対する意識が低下しているためではないかと考えている。高校でも同じようなことが起きているのではないかと。 ○学校広報に関して ・ホームページの肯定率について、生徒と保護者で大きく離れている。今年度よりPTAも広報ブログを始めて、生徒から見ているとの声を聞くが、生徒にとってはSNSの方がよいのではと感じる。 ○地域連携等に関して ・地域での活動について、高校生が地域と関わることは公民館としてもありがたい。今後もwin-winな関係を築いていきたい。 ○働き方改革に関して ・教員について、日々の業務に関する連携は肯定率が上がっているのに、気軽に相談しあえる職場の人間関係については肯定率が下がっている。日々の業務については、教員同士で綿密に話をしているが、今後の学校の在り方等については話すことが減っている。お互いに話をするによりさらに理解が進むと考えられるので、そのような場を意図的に作る必要がある。

て、頑張っていることが示されている。 ・「学校での授業や部活動を通じ、近隣の学校や地域との交流機会がある」 （生徒）の肯定率は、令和4年度 48%、5年度 49%、6年度は 52%と徐々に上昇している。引き続き、地域貢献や他校種との交流を一層、積極的にすすめていきたい。	【第3回 2月10日】 ○進路指導に関して ・難関といわれている大学の合格者が増えてきていることは喜ばしいことだと感じる。また、多くの大学で総合型（探究型）選抜の割合が増加している。探究する力は社会に出ても必要な能力なので、総合型選抜で大学をめざす生徒を育成していただきたい。 ○海外研修に関して ・参加した生徒は大変満足しているが、一部の生徒しか参加していないので限定的だと感じた。次年度は海外の修学旅行もあるが、他では海外研修を複数回実施している学校もある。海外研修の複数回実施についてはどのように考えているか。 【学校より説明】複数回の実施については、教員の引率費用等の課題があり困難である。国内で外国人と交流する機会をつくることで、学習意欲の向上につなげていきたい。今年度は、台湾の学校の来校や日本語学校の留学生との交流を実施した。参加した生徒は生き生きと活動しており、英語をもっと勉強したいという声もあった。海外研修に参加した生徒たちはこのような交流会に積極的に参加している。 ○アドミッションポリシーでの選抜に関して ・府教育庁より入学者選抜制度の改革案が公表されたが、特にアドミッションポリシーでの選抜について、学校経営計画にはどのように反映されているのか。 【学校より説明】現段階では十分に反映ができていない。詳細が決まり次第、中学校等に分かりやすいようにお示しする。 ○姉妹校に関して ・府知事より全府立高校で姉妹校を提携するという教育施策を発表されたが、学校としてはどのように考えているのか。 【学校より説明】来年度より修学旅行で台湾に行くため、台湾の学校で考えていきたいと思う。今後の教育庁からの指示・支援を踏まえて進めていきたい。 ○学校経営計画に関して ・令和7年度学校経営計画について、「させる」という文言を変えて、主体性を重んじる表現にしたことは大事だと思う。先ほどの海外研修についても主体性をもって参加してほしいと思う。また、異文化に触れることで人権意識の向上にもつながると感じる。 ○働き方改革に関して ・業務短縮した時間が生徒や教職員のコミュニケーションにとつなげられればよいが、学校の現状を鑑みると難しいと感じた。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R5年度値]	自己評価
1 生徒が夢と志を抱き、希望する進路を実現させるための進路指導の確立	(1) キャリア教育の充実とその具体化 ・3年間の進路指導計画の更新 ・主体的に進路を切り拓く指導の充実	(1) ・各種進路ガイダンスを展開し学年、学校全体で課題を共有し、今後の進路指導に生かす。 ・大学入学共通テストなど大学入試に関する最新の情報を整理し、生徒の主体的な進路決定をサポートする。	(1) ・学校教育自己診断（生徒）「学校で将来の生き方について考える機会がある」肯定率 90% [96%] ・学校教育自己診断（生徒）「HRなどで進路についての情報を提供されている」肯定率 90% [95%]	(1) ・肯定率は 95%。進路ガイダンスなどが順調に進行できたこともあり、目標を達成することができた。(○) ・肯定率は 96%。進路 HR・講演会に加えて、学習支援クラウドサービスに随時進路情報を発信することも定着できた。(○)
	(2) チャレンジする力と粘り強さの育成 ア 行きたい大学へ進学するためのガイダンス実施 イ 「総合的な探究の時間」との連動 ウ 資格試験受験の奨励	(2) ア・入学当初に高校生活や学習法について丁寧に説明する。また基本的な生活習慣の確立をサポートし、読書を含む適切な学習習慣を早期に確立させる。 ・1年時から系統的な進路指導を進め、生徒・保護者向け進路講演会、ガイダンス等を着実に実施する。 イ・探究の授業でも自分の進路を考える機会を作り、夢や志を具体化させる。 ウ・1.2年生全員が英検受験することで、英語に対する学習意欲をよりいっそう引き出す。	(2) ア・1年生2学期段階での平日・休日の自宅学習時間を確保させる。 平日 65 分・休日 95 分[平日 47 分・休日 78 分] ・国公立及び関西難関私大への現役進学者数 100 人 [103 人] イ・第2学年の「総合的な探究の時間」で「進路の理解が深まった」肯定的率 65% [71%] ウ・実施後のアンケート「英語をより勉強したいという意欲の変化」（1・2年平均）肯定率 60% [65%]	(2) ア・自宅学習時間は平日 41 分、休日 68 分 家庭学習の大切さを繰り返し伝え、指導を行っているが、昨年度よりも減少し目標には届かなかった。生徒への新たな働きかけが必要である。(△) ・国公立及び関西難関私大への現役進学者数は 103 人。(○) イ・肯定率は 78%。2年生では、フィールドワークで様々な仕事を理解することで、進路への興味関心が深まった。(◎) ウ・英検全校受験（5年目）や授業での資格取得対策を行ってきた成果が出てきた。アンケートの肯定率 55% (△)

府立刀根山高等学校

2 「確かな学力」の育成と そのための教員の授業力の向上	（１）学習意欲の向上 ア 必要な学力の獲得と授業第一主義の確立、自学自習の充実 イ 論理的思考力・課題解決力・自分の意見や考えをまとめて表現し伝える力の育成	（１） ア ・より分かりやすい授業展開と自宅学習の促進で学力向上を図る。 ・自宅学習課題を適切に出し、自学自習を支援する。 イ ・各教科の授業の中で、ディベートやプレゼンテーションだけでなく、自分の考えをまとめてノートに記述するなどの時間も確保して「考え表現する力」を育成する。 ・特に探究の授業では、情報収集・討論・調査・まとめの活動を通してこれらの力の育成を図る。	（１） ア ・学校教育自己診断（生徒）「学校の授業は分かりやすい」 肯定率 75% [78%] イ ・学校教育自己診断（生徒）「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」 肯定率 80% [88%] ・第１学年の「総合的な探究の時間」に対する肯定的な評価 85% [87%]	（１） ア ・肯定率は 83%。教員全員で、授業改善に取り組んだ結果、「わかりやすい」という肯定率は昨年度よりさらに上昇した。今後も、情報機器の活用を促進し、生徒のニーズにしっかり答えられるようにしたい。(◎) イ ・肯定率は 88%。探究の授業だけでなく、多くの教科で意識してアウトプットの活動を取り入れており、生徒たちも活発に活動している。(○) ・肯定的な評価は 88%。本取り組みも 6 年めを迎え、効果的な指導法も確立されつつあり、生徒の能力を着実に伸ばすことができた。(○)
	（２）授業力向上 ア ICT を活用した効果的・効率的で興味を持てる授業の推進 イ 教育センター主催研修等の内容の全体への共有 ウ 教員用タブレット PC 導入による ICT の有効活用について研究	（２） ア ・１人１台端末の導入に伴い、これまで以上に興味・関心を持てる授業を推進する。 イ ・10 年経験者研修等の取組内容を校内で共有し、職員研修として企画実施することで全体の授業力向上につなげる。 ウ ・教員用のタブレット PC や 1 人 1 台端末の効果的な活用方法に関する授業見学週間と研究協議を実施し、全体の授業力向上につなげる。	（２） ア ・生徒向け授業アンケートの「授業に興味・関心が持てるようになった」 肯定率 80% [83%] イ ・授業力向上に向けた職員研修と協議を年に 2 回実施する。 ウ ・学校教育自己診断（教員）「コンピューターなどの情報機器が各教科の授業などで活用されている」 肯定率 95% [89%]	（２） ア ・肯定率は 88%。教員による授業での取組みと学習支援クラウドサービスを活用した授業内容の振り返り、課題の提示・提出などのサポートも役立っている。(◎) イ ・６月には転任者の研究授業を、10 月には 10 年経験者の研究授業を実施し、該当教科を中心にそのつど研究協議をして全体の授業力向上につなげた。(○) ウ ・肯定率は 91%。学習支援クラウドサービスや教員端末の活用などが進み、多くの教員が効果的な指導を実施できている。(○)
	（３）多面的・多角的な学習評価の工夫 新学習指導要領に対応した観点別評価の実施	（３） ・観点別評価を実施、検証のうえ、来年度以降につなげる。 ・観点別評価の中でも、特に主体的な学びの評価方法については教科と全体での議論を継続して行う。	（３） ・学校教育自己診断（教員）「本校では評価のあり方について話し合う機会がよくある」 肯定率 80% [80%]	（３） ・肯定率は 67%。新教育課程による観点別評価については導入 3 年めとなり、安定した運用ができている。一方で、各教科での議論は減少傾向にあるので、引き続き評価の公平性や有効な評価方法等について、活発な議論を進めていく必要がある。(△)
3 心豊かでたくましい人間性の育成	（１）他者理解と多様性の尊重 ア 多様な人権課題の提示 イ 各種行事への積極的な参加 ウ 国際交流等による国際的な視野の育成	（１） ア ・人権教育推進委員会と学年・教科が連携し、生徒が主体的に学べるような様々な人権課題を提示する。 イ ・学校行事・部活動・ボランティア活動・インターンシップ等への積極的な参加を図る。 ウ ・海外での語学研修や訪日した高校との交流などを実施する。	（１） ア ・学校教育自己診断（生徒）「学校の授業や行事で人権の大切さを学ぶ機会がある」肯定率 80%[81%] イ ・学校教育自己診断（生徒）「文化祭や体育大会は活発で楽しい」 肯定率 80%[91%] ウ ・海外研修等に参加した生徒へのアンケートで「海外に対する興味・関心が高まった」 肯定率 80% [新規]	（１） ア ・肯定率は 84%、昨年度よりさらに向上した。あらゆる教育活動において人権を大切にしており、HR 活動でも学ぶ機会を設けている。(○) イ ・肯定率は 93%。生徒の希望による種目を導入した体育大会・服装自由化を導入した文化祭の実施により、学校行事に対する肯定感がさらに上昇した。(◎) ウ ・肯定率 100%、海外研修（オーストラリア）を実施し、33 名の参加者があった。また、昨年度より実施している海外の高校との交流では、本年、台湾の高校と一日交流を実施した。交流では英語を使つての会話、両国の文化の紹介などが積極的に行われ、国際的な視野が広がる機会となった。(◎)
	（２）情報リテラシー及び情報モラルの育成 ア 生徒が加害者にも被害者にもならないための対策の実施 イ 情報社会への対応	（２） ア ・SNS 等の利活用について、教科「情報」の授業において、専門家を招聘して 1 年生に講義講演を行う。 イ ・１人１台端末の導入に伴い、情報部主導で教職員の専門性を高めるための情報に関する研修を実施する。	（２） ア ・１年生対象に専門家による講義講演を 1 回は実施する。 イ ・学校教育自己診断（教員）「本校では生徒の個人情報保護の体制が確立している」 肯定率 80% [75%]	（２） ア ・専門家による講義講演は日程が合わず実施できなかった。教員による「知的財産権」及び「情報セキュリティ」に関する授業を実施して情報リテラシーの向上に努めた。(○) イ ・肯定率は 91%。昨年度より、個人情報保護の徹底を全校をあげて取り組んできたため、肯定率が大いに上昇した。(◎)
	（３）安心できる学校生活の確保 ア 教育相談体制の充実 イ 基本的生活習慣の改善と定着	（３） ア ・教育相談委員会が中心となり生徒情報の共有に努め、必要に応じて S C の指導助言や外部機関と連携することで、教育相談体制の一層の充実を図る。 イ ・基本的な生活習慣の定着のため、これまでの遅刻指導を継続して実施する。	（３） ア ・学校教育自己診断（生徒）「悩みや相談に親身になって聞いてくれる先生がいる」 肯定率 70%[75%] イ ・遅刻数を前年度より減少させる。 2475 件以下 [2661 件]	（３） ア ・肯定率は 79%。毎週 1 回の教育相談委員会で配慮を必要とする生徒を中心とした情報共有を行い、SC や外部機関に繋ぐなど学校としての組織的な対応はできており、肯定率もさらに上昇した。(○) イ ・年間の遅刻総数は 2830 件と昨年より増加傾向にある。学校生活に適應できない生徒や体調的に朝から登校できない生徒が増加しているためであり、個別の指導も行っている。(△)

府立刀根山高等学校

4 地域に開かれた学校づくりと魅力ある学校づくり	(1) 本校の教育活動の積極的な情報発信 ア 教職員による中学校訪問 イ HP の充実による魅力の発信 ウ 定期的なメール配信による保護者との連携強化	(1) ア・本校教職員による中学校訪問を行い、本校の取組みや生徒の状況を共有することにより、中高相互の理解や連携を深める。 イ・各種ブログの更新を早めるなど、新たな情報が多数提供されている HP にする。 ウ・毎週末にメールマガジンを配信し、学校の様子を保護者にお知らせする。	(1) ア・夏休み前後に教職員が一定数以上の入学者のある中学校を訪問する。[27 校] イ・HP の閲覧数の 1 日平均 900 を維持する。 (R5 平均約 900) ウ・学校教育自己診断(保護者)「学校のメールマガジンを活用している」肯定率 85% [88%]	(1) ア・夏休み前後に教職員による地元中学校 31 校への学校訪問を実施した。(◎) イ・昨年度以上に校長ブログやクラブ活動の様子を発信し、1 日平均 940 と目標に達した。(◎) ウ・肯定率は 90%。毎週末の定期発信が定着しており、緊急時の連絡にも対応できている。保護者からの肯定率も上昇した。(○)
	(2) 地域との交流・連携の推進 ア 地域の学校や保育園などとの交流・連携の推進 イ 裏山を活用した環境教育の推進と地域交流	(2) ア・地域の学校や福祉施設等との連携事業や地域との防災行事などに取り組む。 ・生徒のボランティア活動をサポートする。 イ・裏山等の刀根山の特徴を活かした地域連携を推進する。コロナの影響で実施困難な場合は、HP 等を利用して引き続き本校の魅力を発信する。	(2) ア・学校教育自己診断(教員)「本校では近隣の学校や地域などとの交流の機会がある」 肯定率 70% [76%] イ・年間を通して、地元蛭池公民館の主催行事に協力する。生物エコ部の活動と連携させて、全校生徒にも裏山の恩恵を還元する。	(2) ア・肯定率は 79%。これまで築いてきた近隣地域との交流活動は継続できている、地域からも評価をされている。(◎) イ・生物エコ部の協力のもと、本年も蛭池公民館と連携して「晩秋の里山を楽しむ」・「門松を作ろう」などの行事を、蛭池・刀根山・箕輪・桜井谷の 4 つの公民分館と連携して各地域の小学校で「ホタル観察会」を実施した。また、「春の七草の寄せ植え」を作製し、近隣のこども園や小学校に提供するなど、地域に貢献する取組みを着実に実施できた。また、運動部生徒がランニングで利用したり、散策を楽しむ生徒がいたりするなど、多くの生徒にも恩恵を還元できている。(◎)
5 働き方改革による校務の効率化	(1) 校務の効率化と教職員の健康増進 (2) 各分掌、学年の年間業務の整理	(1) ・全教職員で協力して顧問を分担することで、生徒の部活動を保障する。 ・部活動方針(休養日等)の遵守、及び、学校一斉定時退庁日の遵守を推進する。 ・働き方改革の観点から、諸会議の運営方法を見直し、教職員の長時間勤務の縮減を図り、健康増進につなげる。 (2) ・学校経営委員会主導のもと、学校の進むべき方向を見定め、各分掌の役割を整理し業務を見直すことで校務の効率化につなげる。	(1) ・学校教育自己診断(生徒)「生徒会活動や部活動が十分にできる環境が整っている」 肯定率 80% [78%]。 ・年間における休養日 105 日以上の確保、及び、学校一斉退庁日の実施割合 90%をめざす。 [新規] ・学校教育自己診断(教員)「日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談し合える職場の人間関係ができている」 肯定率 80% [74%]。 (2) ・学校経営委員会を定期的に開催して、学校の課題を検討し、効率化できる業務を全体に提案してできるところから着手する。	(1) ・肯定率 83%。昨年度よりさらに上昇した。本校は部活動が活発で、生徒の期待に応えるために多くの教員が部活動方針を遵守しながら計画的に活動している (○) ・部活動年間休養日 105 日以上の確保に努めた。学校一斉退庁日は 100%実施した。(○) ・肯定率は 55%と大いに低下している。教員の多忙化のため、教員間のコミュニケーションが不足してきており、学校経営委員会等でも議論しているが、改善には至っていない。特に、気軽に相談できる時間がとれない状況が続いている。(△) (2) ・学校経営委員会において、校内の諸課題と今後の展望等について議論を重ね、業務の削減、新たな課題解決のための教員ミーティングなどを実施した。(○)